

1 調査概要

本調査は、第3次大田市総合計画の策定にあたり、市民の生活実態に関する意識、多様化する市民ニーズ、行政課題を把握するため、市が推進している施策の満足度や市政への意見などを市民から聴取し、本調査結果を基礎資料とすることを目的とする。

調査期間	令和7年9月1日～9月30日
調査対象	市内在住の18歳以上の男女
標本数	3,000人
抽出方法	住民基本台帳の対象年齢層から無作為抽出
調査方法	郵送配布 18歳～59歳：web回答 60歳以上：郵送回収
有効回収数	1,352件（回収率44.4%）

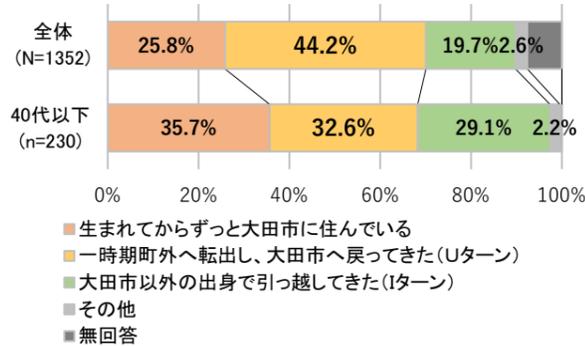
年代	回答数	割合
10代	9	0.7%
20代	46	3.4%
30代	70	5.2%
40代	105	7.8%
50代	145	10.7%
60代	323	23.9%
70代	423	31.3%
80代以上	217	16.1%
無回答	14	1.0%
合計	1,352	100.0%

地区	回答数	構成比
中央	431	31.9%
東部	218	16.1%
西部	261	19.3%
三瓶	87	6.4%
高山	104	7.7%
温泉津	86	6.4%
仁摩	146	10.8%
その他	3	0.2%
無回答	16	1.2%
合計		100.0%

2 調査結果

(1) 現在の住環境について

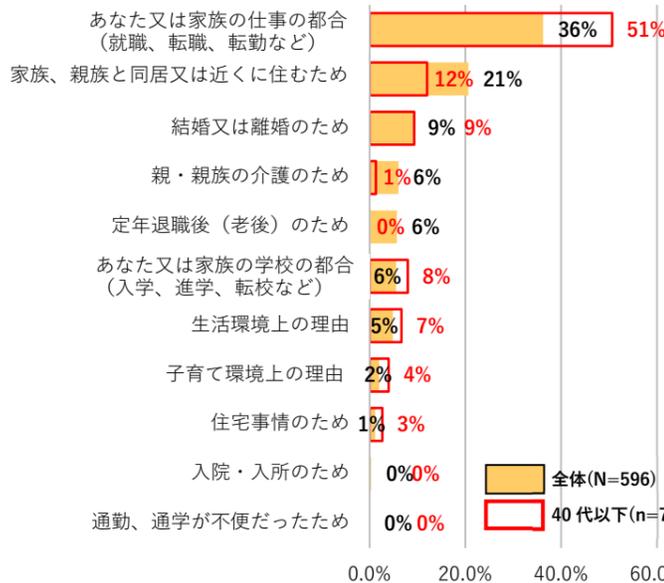
① 大田市での居住歴 問10 SA



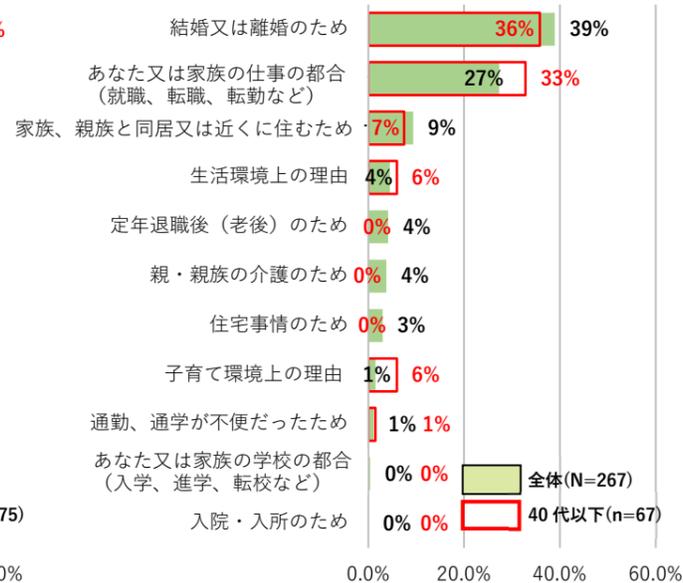
合計	ずっと住んでいる	Uターン	Iターン
全体(N=1352)	25.8%	44.2%	19.7%
20代以下(n=55)	52.7%	25.5%	16.4%
30代(n=70)	34.3%	24.3%	37.1%
40代(n=105)	27.6%	41.9%	30.5%
50代(n=145)	27.6%	41.4%	30.3%
60代(n=323)	26.0%	46.4%	19.5%
70代(n=423)	19.6%	54.4%	15.8%
80代以上(n=217)	27.6%	37.8%	11.5%

※数値の網掛けは、その区分において最も高い数値を示す。※青太字は全体平均より5ポイント以上10ポイント未満の値を示す。赤太字は、全体平均より10ポイント以上高い値を示す。

Uターンの帰住理由

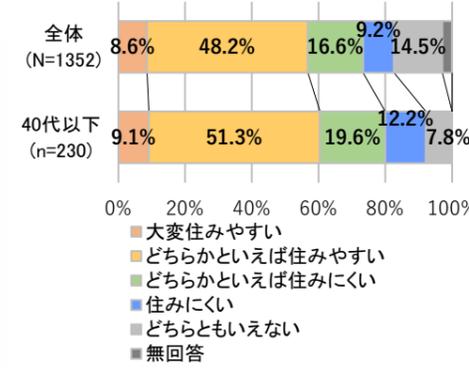


Iターンの転入理由



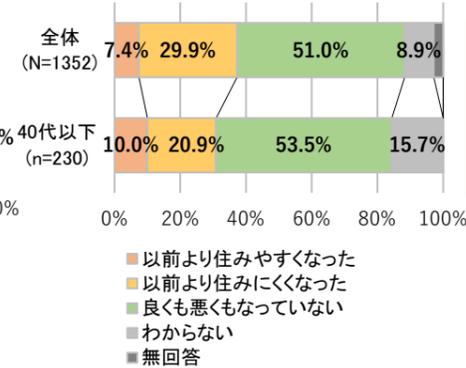
- 「一時期大田市外へ出て、戻ってきた(Uターン)」44.2%、「大田市以外の出身で転入してきた(Iターン)」19.7%と市外での生活経験がある方が63.9%。30代以上の方は半数以上がUターン・Iターン者
- 「生まれてからずっと大田市に住んでいる」方は25.8%
- Uターンの理由は「自身又は家族の仕事の都合」「家族、親族と同居又は近くに住むため」
- Iターンの理由は「結婚又は離婚のため」「自身又は家族の仕事の都合」

② 大田市の住み心地 問11 SA



- 「住みやすい」と感じている方が56.8%（「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計）
- 40代以下は、「住みにくい」と感じている人の割合が全体よりも高い。

③ ここ数年の間の生活環境の変化 問13 SA

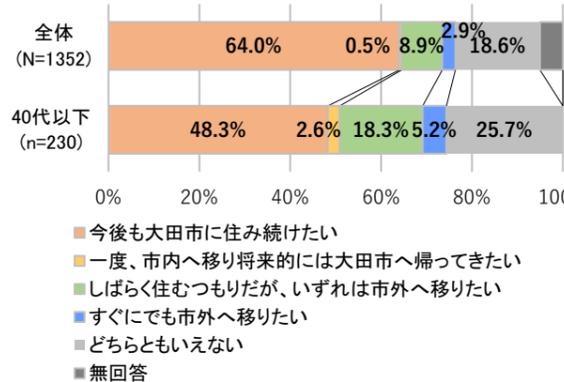


- 住みやすくなった理由 (n=100)
- 買い物が便利になった 39.0%
 - 道路が良くなった 33.0%
 - 都市基盤の充実化 5.0%

- 住みにくくなった理由 (n=404)
- 店がなくなり買い物が不便 23.3%
 - 人口減少・少子高齢化 14.4%
 - 鳥獣被害が増えた 10.1%

- 「住みにくくなった」が29.9%、「住みやすくなった」が7.4%で「住みにくくなった」と感じている人の方が多い
- 40代以下は、「住みにくくなった」と感じている人の割合が全体よりも低い。

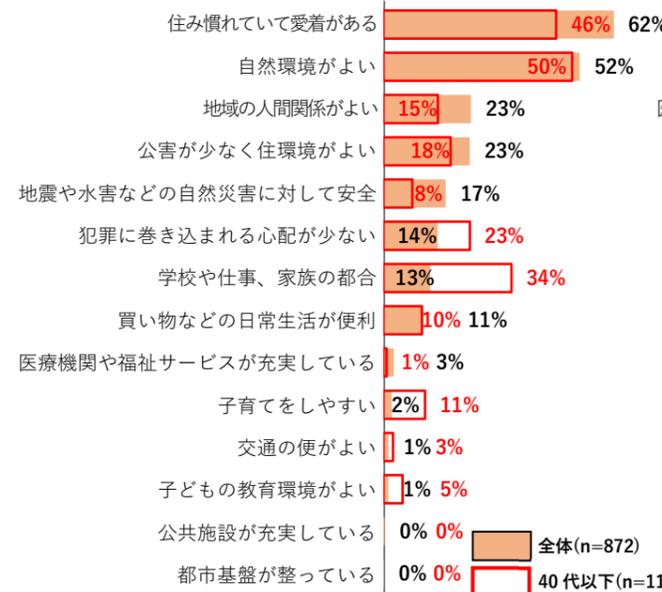
④ 今後の定住意向 問12 SA



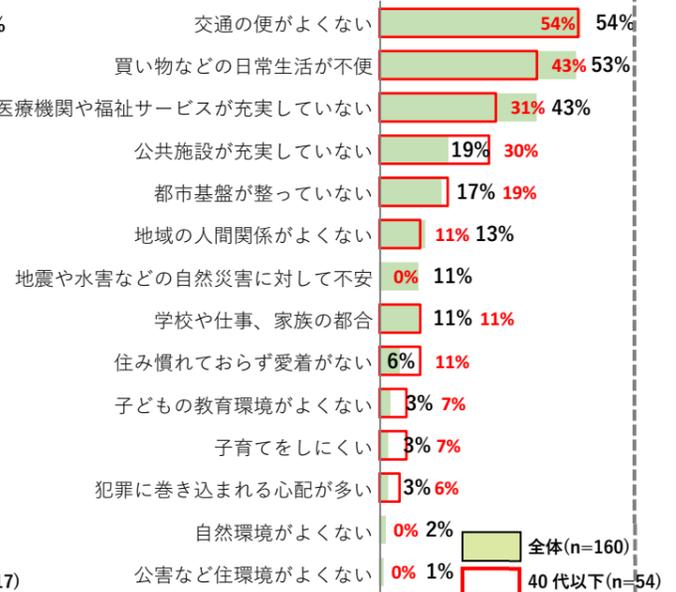
合計	今後も大田市に住み続けたい	一度、市外へ移り、将来的には大田市へ帰ってきたい	しばらく住むつもりだが、いずれは市外へ移りたい	すぐにでも市外へ移りたい
全体(N=1352)	64.0%	0.5%	8.9%	2.9%
20代以下(n=55)	41.8%	7.3%	23.6%	7.3%
30代(n=70)	51.4%	1.4%	20.0%	4.3%
40代(n=105)	49.5%	1.0%	14.3%	4.8%
50代(n=145)	49.7%	0.0%	15.2%	4.1%
60代(n=323)	63.7%	0.0%	9.3%	2.5%
70代(n=423)	74.0%	0.0%	3.5%	1.9%
80代以上(n=217)	73.7%	0.5%	5.1%	1.8%

※数値の網掛けは、その区分において最も高い数値を示す。※青太字は全体平均より5ポイント以上10ポイント未満の値を示す。赤太字は、全体平均より10ポイント以上高い値を示す。

④-1. 住み続けたい(帰ってきたい)理由 問12-1 MA (3つ)



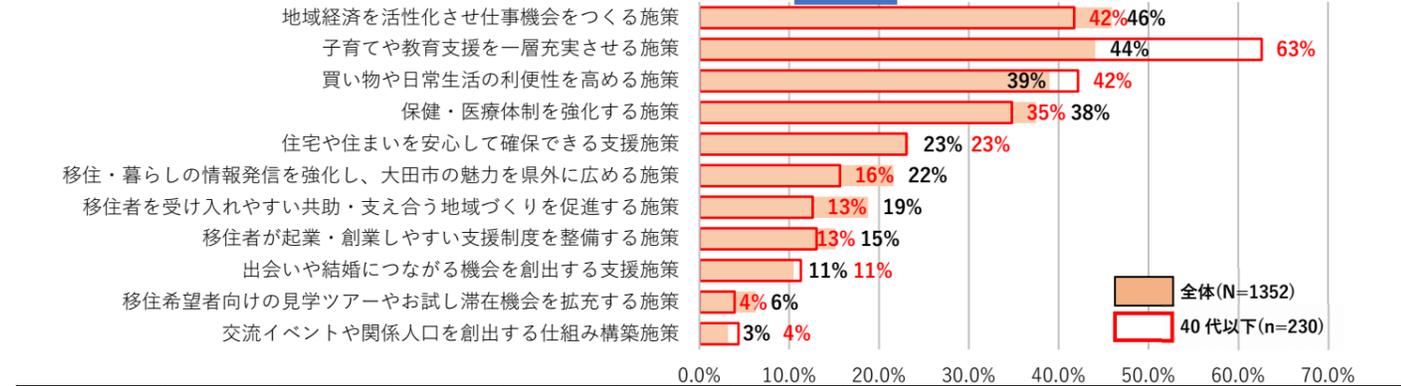
④-2. 移りたい理由 問12-2 MA (3つ)



- 「今後も大田市に住み続けたい」が64.0%と全体の約6割が定住意向を示している
- 「しばらく住むつもりだが、いずれは市外へ移りたい」が8.9%、「すぐにでも市外へ移りたい」が2.9%と、移住意向が約1割みられた。
- 30代以下は「しばらく住むつもりだが、いずれは市外へ移りたい」が2割以上
- 住み続けたいと思う理由は「住み慣れていて愛着がある」「自然環境が良い」。40代以下では、「学校や仕事、家族の都合」も多い
- 移りたいと思う理由は「交通の便がよい」「買い物などの日常生活が不便」「医療機関や福祉サービスが充実していない」

（2）地域の持続性を高める人口対策について

① 大田市への移住・定住者を増やすために力をいれるべき施策 問16 MA

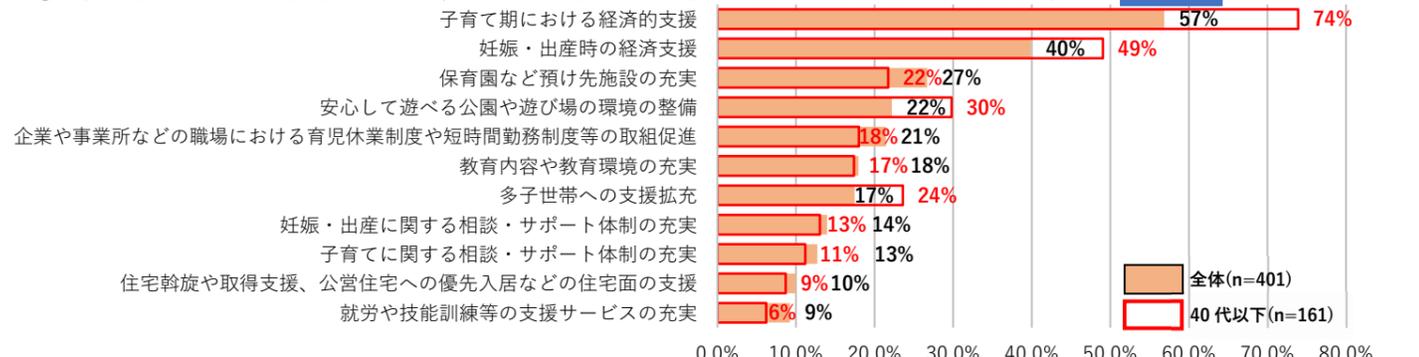


合計	子育て・教育支援の充実	仕事機会をつくる	移住者の起業・創業の支援制度	住宅を安心して確保	日常生活の利便性を高める	保健・医療体制を強化	出会いや結婚の機会を創出	移住希望者向けのツアー・滞在機会	関係人口を創出する仕組み	大田市の魅力を広める	共助・支えあう地域づくり
全体(N=1352)	44.1%	45.9%	15.2%	23.3%	39.0%	37.5%	10.5%	6.3%	3.2%	21.6%	18.8%
20代以下(n=55)	65.5%	32.7%	12.7%	16.4%	50.9%	30.9%	12.7%	5.5%	7.3%	14.5%	9.1%
30代(n=70)	74.3%	48.6%	12.9%	21.4%	37.1%	30.0%	5.7%	0.0%	5.7%	17.1%	8.6%
40代(n=105)	53.3%	41.9%	13.3%	27.6%	41.0%	40.0%	14.3%	5.7%	1.9%	15.2%	17.1%
50代(n=145)	49.7%	49.7%	23.4%	26.9%	36.6%	38.6%	3.4%	9.0%	1.4%	12.4%	21.4%
60代(n=323)	48.0%	44.3%	15.8%	23.8%	36.8%	44.3%	9.9%	6.5%	2.5%	22.0%	15.5%
70代(n=423)	35.9%	49.6%	13.7%	23.4%	39.5%	37.1%	10.4%	6.1%	3.1%	26.5%	21.0%
80代以上(n=217)	32.7%	44.7%	13.4%	21.7%	40.6%	30.9%	16.1%	7.4%	4.1%	24.4%	24.4%

※数値の網掛けは、その区分において最も高い数値を示す。※青太字は全体平均より5ポイント以上10ポイント未満の値を示す。赤太字は、全体平均より10ポイント以上高い値を示す。

- 「仕事機会の創出」「子育て・教育支援の充実」「買い物等の日常生活の利便性を高める」「保健・医療体制」に力を入れることが望まれている
- 30代以下は「子育て・教育支援の充実」が特に高い。また、20代以下で「買い物等の日常生活の利便性を高める」が50.9%

② 希望通りの人数の子どもを持ち、子育てをしていくために期待する出産・子育て施策 問18 MA

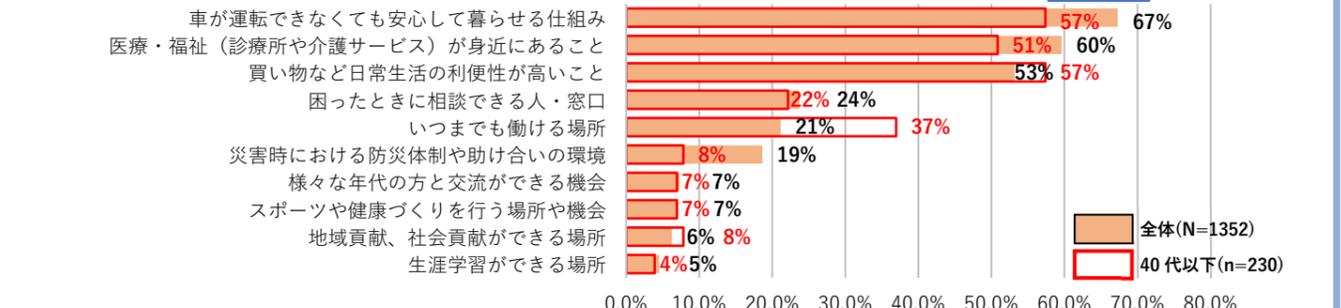


合計	妊娠・出産に関する相談・サポート体制の充実	妊娠・出産時の経済支援	子育て期における経済的支援	多子世帯への支援拡充	子育てに関する相談・サポート体制の充実	保育園など預け先施設の充実	安心して遊べる公園や遊び場の環境の整備	教育内容や教育環境の充実	就労や技能訓練等の支援サービスの充実	職場における育児休業制度や短時間勤務制度等の取組促進	住宅斡旋や取得支援、公営住宅への優先入居などの住宅面の支援
全体(n=401)	14.0%	39.9%	56.9%	17.5%	12.7%	26.7%	22.2%	18.0%	9.2%	21.4%	10.0%
20代以下(n=29)	10.3%	58.6%	75.9%	13.8%	13.8%	24.1%	31.0%	10.3%	3.4%	13.8%	3.4%
30代(n=48)	14.6%	45.8%	89.6%	25.0%	10.4%	22.9%	33.3%	18.8%	10.4%	16.7%	2.1%
40代(n=84)	13.1%	47.6%	64.3%	26.2%	10.7%	20.2%	27.4%	19.0%	4.8%	20.2%	14.3%
50代(n=98)	16.3%	34.7%	45.9%	18.4%	15.3%	43.9%	17.3%	23.5%	9.2%	26.5%	15.3%
60代(n=71)	14.1%	33.8%	47.9%	12.7%	11.3%	29.6%	18.3%	19.7%	16.9%	32.4%	7.0%
70代(n=47)	14.9%	36.2%	48.9%	8.5%	12.8%	12.8%	12.8%	10.6%	12.8%	12.8%	8.5%
80代以上(n=23)	8.7%	26.1%	30.4%	4.3%	17.4%	8.7%	21.7%	8.7%	0.0%	8.7%	8.7%

※数値の網掛けは、その区分において最も高い数値を示す。※青太字は全体平均より5ポイント以上10ポイント未満の値を示す。赤太字は、全体平均より10ポイント以上高い値を示す。

- 「子育て期における経済的支援」が最も多く56.9%、次いで、「妊娠・出産時の経済支援」「保育園など預け先施設の充実」
- すべての年代で「子育て期における経済的支援」が高く、特に30代以下で高い
- 40代以下では、「安心して遊べる公園・遊び場の環境の整備」が望まれている

③ 人口減少下でも、市民が住み慣れた地域で活躍し、暮らし続けるために重要なこと 問19 MA



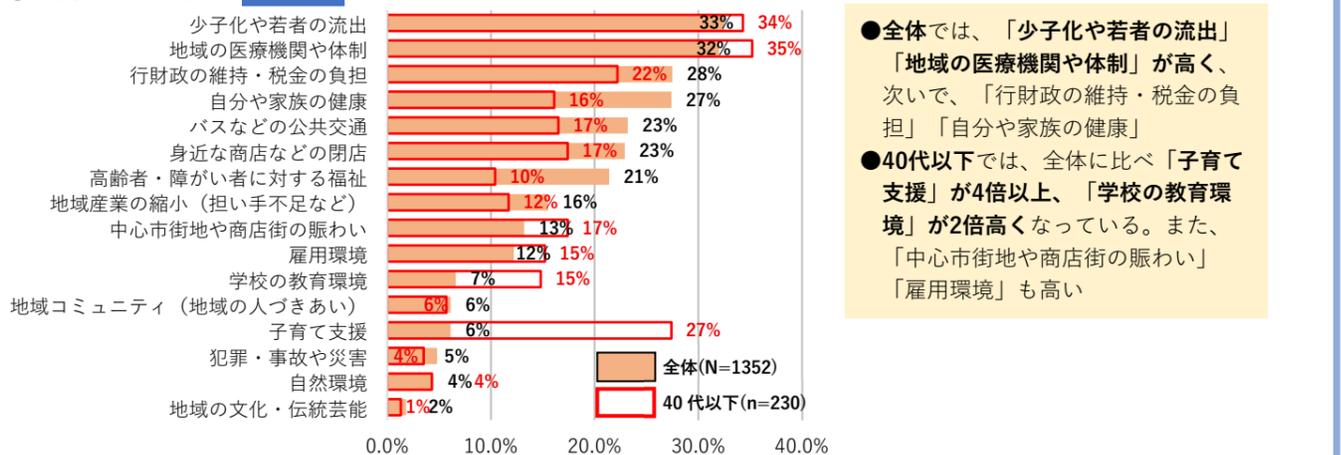
合計	車が運転できなくても安心して暮らせる仕組み	いつまでも働ける場所	生涯学習ができる場所	地域貢献、社会貢献ができる場所	様々な年代の方と交流ができる機会	スポーツや健康づくりを行う場所や機会	困ったときに相談できる人・窓口	災害時における防災体制や助け合いの環境	医療・福祉が身近にあること	買い物など日常生活の利便性が高いこと
全体(N=1352)	67.3%	21.2%	4.5%	6.3%	7.3%	6.9%	23.7%	18.6%	59.6%	53.2%
20代以下(n=55)	49.1%	32.7%	3.6%	9.1%	5.5%	7.3%	18.2%	14.5%	50.9%	52.7%
30代(n=70)	58.6%	40.0%	4.3%	10.0%	5.7%	5.7%	20.0%	4.3%	47.1%	60.0%
40代(n=105)	61.0%	37.1%	3.8%	5.7%	8.6%	7.6%	25.7%	6.7%	53.3%	58.1%
50代(n=145)	60.7%	40.0%	4.8%	9.0%	4.1%	4.8%	20.7%	13.1%	58.6%	49.7%
60代(n=323)	71.2%	19.2%	4.0%	5.9%	5.9%	6.8%	25.1%	19.8%	67.8%	51.7%
70代(n=423)	70.4%	15.6%	5.2%	6.4%	9.0%	7.8%	22.2%	21.0%	61.7%	53.4%
80代以上(n=217)	72.4%	6.5%	4.1%	3.2%	8.8%	6.9%	28.6%	28.1%	54.4%	54.8%

※数値の網掛けは、その区分において最も高い数値を示す。※青太字は全体平均より5ポイント以上10ポイント未満の値を示す。赤太字は、全体平均より10ポイント以上高い値を示す。

- 「車が運転できなくても暮らせる仕組み」「医療・福祉が身近にあること」「買い物など日常生活の利便性が高いこと」が重要と考えられている
- 30代以下は「買い物など日常生活の利便性が高いこと」が最も高い。また、50代以下は「いつまでも働ける場所」も高い

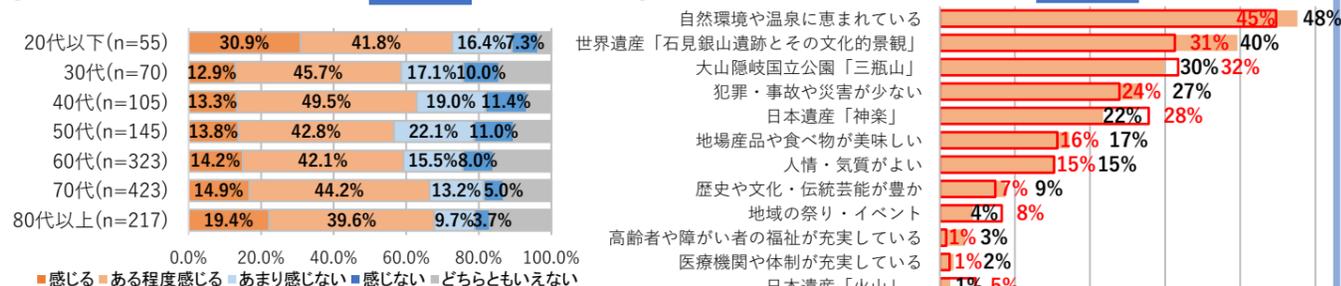
（3）大田市に対する意見

① 今後の心配ごと 問34 MA



- 全体では、「少子化や若者の流出」「地域の医療機関や体制」が高く、次いで、「行財政の維持・税金の負担」「自分や家族の健康」
- 40代以下では、全体に比べ「子育て支援」が4倍以上、「学校の教育環境」が2倍高くなっている。また、「中心市街地や商店街の賑わい」「雇用環境」も高い

② 大田市に対する愛着・誇り 問32 SA



- 20代以下は「愛着や誇りを感じている」割合が高い。40代・50代は愛着や誇りを感じない割合が高い
- 自慢できる場所は「自然」「石見銀山」「三瓶山」が高い

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0%

（４）施策の満足度・重要度について

① 施策の「満足度」と「重要度」の指標化 問 14 SA

第2次大田市総合計画に掲げた29の施策について、それぞれの「満足度」と「今後の重要度」を5段階評価でたずねた。

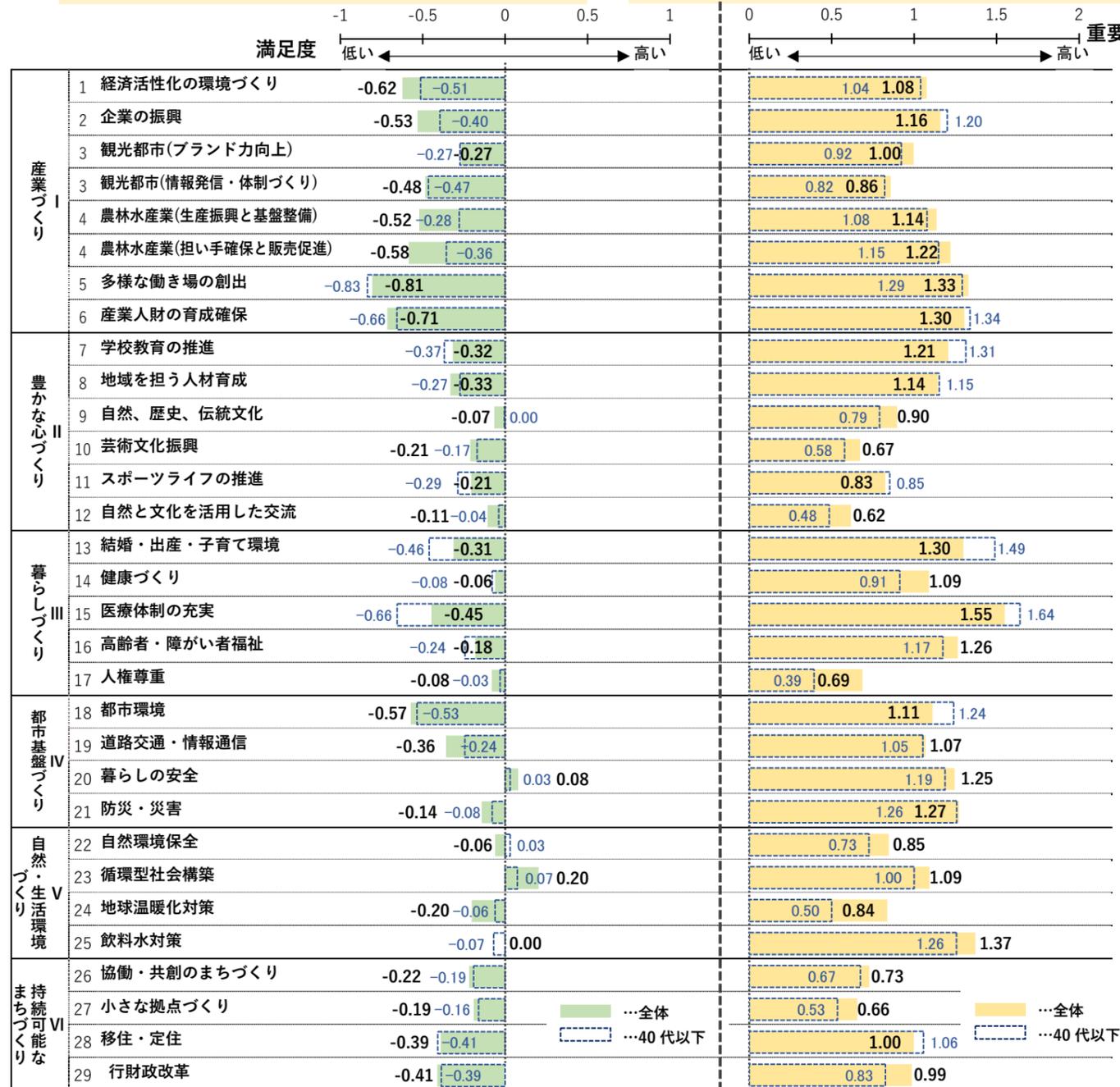
施策の「満足度」と「重要度」をよりわかりやすく分析するため以下のように係数（ウエイト）を設定し、加重平均による指標化を行った。
【満足度】
 「満足」の件数×2点+「やや満足」の件数×1点+「どちらともいえない」の件数×0点+「やや不満」の件数×-1点+「不満」の件数×-2点 ÷（回答者件数-無回答件数）
【重要度】
 「重要」の件数×2点+「やや重要」の件数×1点+「どちらともいえない」の件数×0点+「あまり重要ではない」の件数×-1点+「重要ではない」の件数×-2点 ÷（回答者件数-無回答件数）

■ 施策の満足度

- 「不満側」となったのが31項目中29項目と多く、「満足側」となったのは、「23循環型社会構築」「20暮らしの安全」のみ
- 「V自然・生活環境」の施策の満足度が比較的高く、「I産業」の施策の満足度が低い。最も「不満」なのは、「多様な働き場の創出」
- 40代以下では、「15医療体制の充実」「13結婚・出産・子育て環境」が全体に比べて「不満側」となっている

■ 施策の重要度

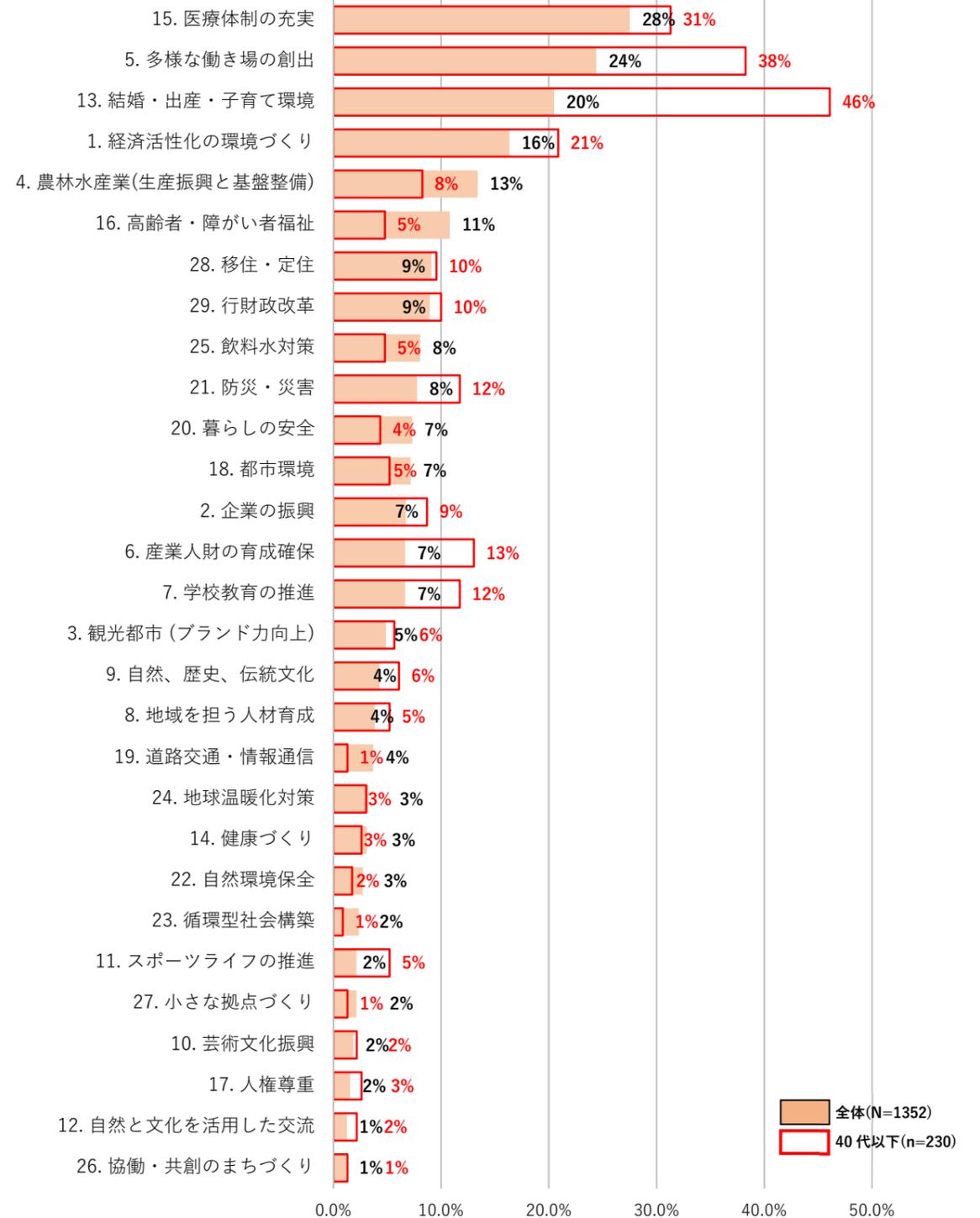
- 「I産業」「III暮らし」「IV都市基盤」は重要度が総じて高く、「VI持続可能なまちづくり」は低くなっている
- 重要度が高いのは「15医療体制の充実」「25飲料水対策」「13結婚・出産・子育て環境」
- 40代以下では、「13結婚・出産・子育て環境」「18都市環境」「7学校教育の推進」が全体に比べて高くなっている



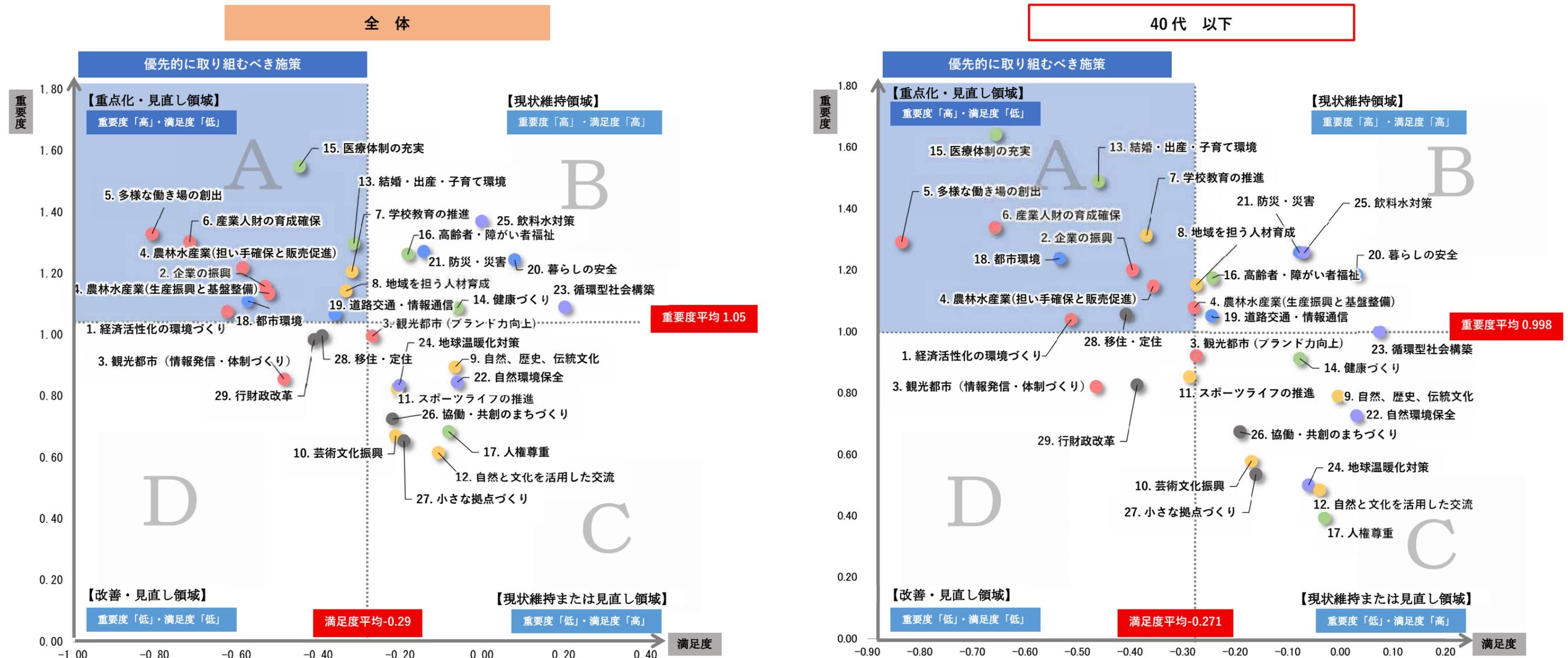
② 今後、特に重要だと思う施策 問 15 MA

29の施策について、今後、特に『重要』だと思う施策を3つまで選択してもらった。

- 「15.医療体制の充実」が最も高く、次いで「5.多様な働き場の創出」、「13.結婚・出産・子育て環境」
- 「I産業」「III暮らし」に属する施策の重要度が高い
- 40代以下でも、上位3施策は全体と変わらないが、「13結婚・出産・子育て環境」が最も高く全体の倍以上の値となっている。また、「多様な働き場の創出」も全体の1.5倍程度と高くなっている。



③施策の「満足度」と「重要度」の相関図による分析 「満足度」と「重要度」それぞれの加重平均値をもとに、縦軸に「重要度」、横軸に「満足度」をとり、29の施策を散布図上に示し、「相関図」として各施策の位置づけを整理した。



【A】重点化・見直し領域	重要度は高いが、満足度が低い 今後のまちづくりにおける重要度は高いが、満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含めて、満足度を高める必要がある領域を表す。	全体	1.経済活性化の環境づくり、2.企業の振興、4.農林水産業(生産振興と基盤整備)、4.農林水産業(担い手確保と販売促進)、5.多様な働き場の創出、6.産業人財の育成確保、7.学校教育の推進、8.地域を担う人材育成、13.結婚・出産・子育て環境、15.医療体制の充実、18.都市環境、19.道路交通・情報通信
		40代以下	1.経済活性化の環境づくり、2.企業の振興、4.農林水産業(生産振興と基盤整備)、4.農林水産業(担い手確保と販売促進) 5.多様な働き場の創出、6.産業人財の育成確保、7.学校教育の推進、8.地域を担う人材育成、13.結婚・出産・子育て環境、15.医療体制の充実、18.都市環境、28.移住・定住
【B】現状維持領域	重要度、満足度ともに高い 今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域を表す。	全体	14.健康づくり、16.高齢者・障がい者福祉、20.暮らしの安全、21.防災・災害、23.循環型社会構築、25.飲料水対策
		40代以下	16.高齢者・障がい者福祉、19.道路交通・情報通信、20.暮らしの安全、21.防災・災害、23.循環型社会構築、25.飲料水対策
【C】現状維持または見直し領域	重要度が低く、満足度が高い 今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策のあり方を含めて見直す必要がある領域を表す。	全体	3.観光都市(ブランド力向上)、9.自然、歴史、伝統文化、10.芸術文化振興、11.スポーツライフの推進、12.自然と文化を活用した交流、17.人権尊重、22.自然環境保全、24.地球温暖化対策、26.協働・共創のまちづくり、27.小さな拠点づくり
		40代以下	9.自然、歴史、伝統文化、10.芸術文化振興、12.自然と文化を活用した交流、14.健康づくり、17.人権尊重 22.自然環境保全、24.地球温暖化対策、26.協働・共創のまちづくり、27.小さな拠点づくり
【D】改善・見直し領域	重要度、満足度ともに低い 今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策のあり方や進め方そのものを、改めて見直す必要がある領域を表す。	全体	3.観光都市(情報発信・体制づくり)、28.移住・定住、29.行財政改革
		40代以下	3.観光都市(ブランド力向上)、3.観光都市(情報発信・体制づくり)、11.スポーツライフの推進、29.行財政改革

※赤字は「全体」と「40代以下」で区分が異なる施策